

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0150280089		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23 (電話) 011-753-8022		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年10月27日

【情報提供票より】 (21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算	17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円 暖房費 (11-3月) 10,000円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 16日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89 歳	最低 81 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌東徳洲会病院・平川歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大阪に本部を置く大手医療法人徳洲会を事業主体とし、札幌東徳洲会病院を協力医療機関として、同法人系列の老人保健施設と棟を同じくしてこれを設立母体とし、協力関係にあるため、医療及び関連事業の強い連携とバックアップ体制が利用者、家族の信頼につながっている。管理業務、行事、防災、職員教育などは母体と共同で実施し、大きな組織の利点を活かしている。閑静な住宅地に母体施設と共有の広い敷地を持った建物で、広々としたリビング、食堂を備え、利用者は和気あいあいくつろいでいる。職員は互いに工夫しながら利用者が無為な生活に陥らないよう、折り紙、塗り絵、体操など多彩な楽しみを支援している。家族への報告は毎月、写真入でホームの行事などを伝える「なえぼ通信」のほかに個人別に月ごとの生活の様子をつづった手紙を送っており、要を得た報告がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の取り組み事項であった行政との連携に引き続き努力している。、外部苦情受付機関の書面記載を行い、重度化や終末期の方針については具体的に検討し、家族と話し合っている。 今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)
	②	全職員に趣旨を説明した上で、それぞれ可能な部分の記入を求め、管理者がまとめる形で作成に取り組んだ。職員にとっては日ごろの業務を改めて見直す機会となっており、外部評価で得られた示唆から季節感や見当識に配慮したリビングの飾り、専門家による栄養管理など、多くの点で改善につながっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 家族や地域住民関係者の多忙さから参加者を得るのに苦慮しているが、2ヶ月ごとに開催している。また、バーベキューなどの行事と組み合わせることによって参加しやすい形を作っている。議題としては行事などの活動内容、自己・外部評価、ターミナルケアなどについて話し合っている。会議の趣旨がまだまだ十分浸透せず、意見や提言が活かされるまでにはもう一歩である。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 母体の老人保健施設と共同で家族へのアンケートを年1回実施し、忌憚のない意見が出せる仕組みを作っているが、これまでのところ大きな問題は出てきていない。日常的に家族の来訪時には希望や意見などを聞きだすような努力をしている。 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 所属の町内会が特定企業の社員家族で占められているため、当ホームの町内会への加入は受け入れられていないが、日頃から友好的な交流は行われ、連合町内会の夏祭り、運動会、防災訓練には母体施設とともに参加している。近隣住民とホームの庭づくりを共同で行うなどの交流をしている。幼稚園、小学校から運動会、発表会の誘いに園児・児童が来訪し演技を見せてくれるほか、中学・高校からは職業体験などで来訪がある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気、地域に根ざし豊かに暮らせる環境、自分らしく健康に暮らせる生活をそれぞれ目指すという、事業所開設時に作られた独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関及びホームに掲げ、パンフレットにも記載されている。さらに理念を元に一層具体的に重点を取り上げ、1年間の目標として、今年は「今日も一日笑顔を忘れず」を掲げて実践に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入は受け入れられていないが、日ごろ友好的な交流は行われている。連合町内会の夏祭り、運動会、防災訓練には母体施設とともに参加している。近隣住民とホームの庭づくりを共同で行うなどの交流をしている。幼稚園、小学校から運動会、発表会の誘いに園児・児童が来訪し演技を披露し、中学・高校からは職業体験などで来訪がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に趣旨を説明した上で、それぞれ可能な部分の記入を求め、管理者がまとめる形で作成に取り組んだ。職員にとっては日ごろの業務を改めて見直す機会となっており、外部評価で得られた示唆から季節感や見当識に配慮したリビングの飾り、専門家による栄養管理など、多くの点で改善につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民関係者の多忙さから参加者を得るのに苦慮しているが、2ヶ月ごとに開催している。また、バーベキューなどの行事と組み合わせることによって参加しやすい形を作っている。議題としては行事などの活動内容、自己・外部評価、ターミナルケアなどについて話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務的な用件でも区役所を訪問し、担当者と直接会話するよう心掛けているが、利用者のサービス向上につながるような具体的な成果はまだ得られていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真を豊富にあしらった「なえぼ通信」を発行して行事や利用者の暮らしぶり、職員の異動などを知らせている。さらに、利用者ごとにひと月の生活ぶり、健康状態などを簡潔にまとめた手紙と金銭管理も同時に送付している。家族の来訪時の報告、体調変化時の随時の電話報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体の老人保健施設と共同で家族へのアンケートを年1回実施し、忌憚のない意見が表出できる仕組みを作っているが、これまでのところ大きな問題は出てきていない。日常的に家族の来訪時には希望や意見などを聞きだすような努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体事業所との間で人事異動が年に1～2回行われるほか、離職とそれに伴う交代がある。利用者は特定の職員にさほど強くこだわることはなく、職員が変わっても特段のダメージは見られない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事故や処遇上の問題があったときなどに、必要に応じて年に数回、ホーム内で勉強会を実施している。母体の老人保健施設と合同で毎月、研修会を実施している。また、徳洲会グループ合同の研修会が、外部講師を招いて年に5回ほど開催される。外部研修は、ふさわしい内容のものは少ないが、グループホーム協議会などの案内に基づいて年に5人ぐらい出席している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の管理者会議などで、管理者レベルでの交流、研修会には参加しているが、一般職員については機会が少なく、機会があっても人員の事情や勤務の都合などで実現していない。	○	一般職員についても、同業者の訪問見学などの機会をぜひ実現するよう、期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体の老人保健施設のデイサービス利用者が入居になるケースが多く、事前に気軽に見学を訪れ、十分納得した上での入居となっている。利用開始当初は職員も気を遣って注意深く目配りするが、心配するほどのこともなく馴染んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備、後片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、衣服の修理など家事を分担し、調理法、漬物の漬け方など、利用者の知恵を借りることも多い。職員によっては利用者の昔の体験談から感銘を受け、深く学んでいる人もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の思いや意向を把握するように努めている。具体的な選択肢を提示することで意思表示しやすいような工夫もしている。理解困難な言動もその理由を考えることで気持ちを察するような努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアプラン会議で利用者一人ひとりに、家族や本人の要望を取り入れた介護計画を話し合い、計画作成者がまとめてプランを作成する。特に、入居した時や体調に変化があったときなど、職員は意見を出し合って現状に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録や家族の意見などを参考にして、介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行っている。健康状態の変化や、症状の変化があった場合はその都度、利用者の状況に合わせた介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の同行や買物の個別対応など柔軟な支援をしている。特に車椅子利用者の外出支援もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力医療機関から医師が往診で事業所に来訪し、適切な医療が受けられるように支援している。また、本人と家族の希望でかかりつけ医師を決めている利用者には、外来受診の機会を確保し、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同一法人医療機関との協力体制が良好で、重度化した場合の対応に係る指針を作成し、利用者と家族との提携について合意を取り交わしている。職員は最大のケアが出来るように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は日常的に利用者との関わりについて学び、プライバシーに配慮した実践に努力をしている。居室の入口には氏名の記入を止め、顔写真と入浴曜日を掲載した分かりやすい表示をして、利用者の馴染みになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として一日のおおよその流れはあるが、固守しないで利用者本位に過ごしている。居室に閉じこもらずにリビングで過ごす利用者が多く、職員が一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中から希望の献立を聞いたり、作り方を話し合ったりしながら、楽しい食事となるように食卓を囲んでいる。管理栄養士が作成した献立表を参考にしながら、利用者にあわせた工夫をしている。準備や片付けに利用者も出来る人は関わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	居室前の入口に入浴曜日を記入した顔写真などを掲示し、自分の入浴日が分かるように工夫している。概ね週2回、介護度の高い利用者には職員2名介助で入浴支援をしている。月曜日から土曜日まで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に出来ること、好きなこと、楽しみなことを選び出し、毎日の生活の中で出番をつくり支援している。洗濯物を干したりたたんだり、茶碗ふき、掃除など家事を職員と共にする。折り紙を楽しみとしている。また、集団で楽しむ場面づくりもしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が可能な利用者は、出来る限り散歩に出かけるようにしている。また、事業所として屋外行事を計画し、暖かい時期はお花見や夏祭りなど楽しいプログラムを企画実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開放し施錠はしていない。外出希望の強い利用者には職員が同行するようにしている。自動ドアが設置されているが、危険を回避するため電源を切り手動とし、安全を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所単独で避難訓練を年1度、夜間想定で実施している。さらに、隣接の老人保健施設と合同の訓練を年2回実施している。なおスプリンクラーは既に設置済みである。運営推進会議で、敷地内の施設に緊急時の協力を依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、定期的な体重測定を実施している。栄養面については、隣接の老人保健施設の管理栄養士の指導を受け、特に水分補給には職員全員で取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くゆったりとし、テレビの視聴やくつろぎの居場所は落ち着いた造りになっている。見通しの良い長方形型で、利用者の居室や居場所は把握しやすい。不快な音や光はないように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれ个性的に家具やベッドが配置され、落ち着いた居場所となっている。居室の入口は開放され、入退室は容易である。また、飾りつけなどにも工夫が見られ、その人らしい部屋となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。